



もりおかさとこ
森岡聡子議員

都市計画マスタープランの
見直しについて問う

議員 マスタープラン見直しの経緯と課題、考え方をたずねる。

市長 総合計画等で課題となっており、中心市街地の活性化に向けて、持続可能なコンパクトなまちづくり等を目指す立地適正化計画を昨年策定したが、都市計画法に基づく市町村マスタープランの一部とみなされるため、計画と整合性を図るためにプランを見直す。篠坂スマートインターチェンジ整備、国道2号バイパス開通等も併せて必要な修正を加える。改定ポイントを絞った時点修正のため、目標年次は令和17年の予定である。

議員 実施のために、限られた財源をどう効果的に活用するのか。

市長 各種実施事業において最大



の効果を得られるよう、都市施設等の適切で効率的な整備を進める。

ワクチン接種整備体制について問う

議員 集団接種での問題点は何か。

市長 一番の課題は接種を受ける方の会場までの移動手段と考える。接種後の経過観察、救急体制も大きな課題である。アナフィラキシー症状が起こる可能性に備えて医療従事者の確保や設備の準備、救急搬送の必要もあり、連携を整え安全な接種体制を構築する。

議員 正確でスピーディーな情報公開はできるか。

市長 広報紙やホームページ等を通じて伝えるよう考えている。また、広報紙3月号に折込みのリーフレットにも掲載したが、ワクチン相談専用電話を設置した。



おおやまもりひさ
大山盛久議員

笠岡市の財政状況について問う

議員 市長就任後、貯金である財政調整基金が4年間で約10億円減少している。使用した状況についてたずねる。

市長 財政調整基金の残高は平成27年度末で約17億円、令和元年度末で約6億8千万円と4年間で約10億2千万円を取り崩している。これは、主に平成28年度、平成30年度の豪雨被害による災害被害復旧事業等に多額の費用が必要になったため、財政調整基金の取り崩しを余儀なくされたものである。厳しい状況は続くが、将来の見通しを確実に把握し、入るを量りて出ざるを制すを常に心に留め、財源の確保、支出の適正化による財政健全化の取組を継続して行い、揺るぎない財政基盤を確立してまいる。



有害鳥獣対策について問う

議員 令和2年度の有害鳥獣捕獲状況と有害鳥獣対策の現状と課題についてたずねる。

産業部長 令和2年度の有害鳥獣捕獲状況は2月末日現在で755頭となっており、令和元年度の416頭と比較しても約1・8倍になっている。引き続き、猟友会、地域住民組織、そして本市との連携を強化し、集落に住み着くイノシシを一扫することでイノシシの個数を減らし、被害通報件数を低減したい。駆除と併せて、侵入防止柵設置による防衛対策の強化も必須であると考えており、来年度においても予算計上している農作物有害獣防止対策事業補助金を活用した侵入防止柵をより一層の啓発と普及を行っていく。